

朝
ひらく

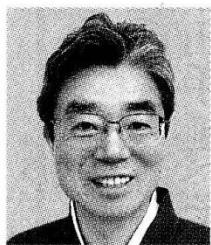
それまで当たり前に感じていたことが、ある時突然、何か変だと思いつめる始めることがある。

「なんでお寺に鳥居があるの？」、「鳥居って、神道の象徴でしょうか？」海外からの参詣者の疑問であった。その通り、自

鳥居の歴史について少し調べてみた。主要な説として、天照

お寺に鳥居

永田 圓了
真国寺住職



大御神を天岩戸から誘いだすために鳴かせた「常世の長鳴鳥」にちなみ、神前に鶏の止まり木を置いたことが起源とされる。神社などにおいては、神域と人間が住む俗界を区画する門として使用されている。

真国寺の鳥居は、明治政府による廃仏毀釈などの影響で、明治17年に建立された。その後、

日本人のおおらかさ

鳥居の歴史について少し調べてみた。主要な説として、天照

資し、明治42年に当時の木造の鳥居が、現在の石鳥居に造り替えられた。

本文化に、「神か仏か」と迫る。

日本文学研究者、ドナルド・キーン氏は、祖国アメリカを離れ日本国籍までとつて日本に永住する決断をした。日本の魅力について、キーン氏は一番に奈

良・室生寺の思い出を語った。「雨が降ってきて、寺から出できたおばあさんが、次につ来るとも分からぬ私に傘を貸してくれた」

ちっちゃくてパーソナルな、でもほんわかと温かい日本文化のよさを、皮膚感覚で語った。

しかし、明治に入って雲行きが怪しくなる。物事に白黒をつけようとする欧米のデジタル思考が、本来おおらかでアーノグ的なやさしさがある日

文化はそれがいいのである。お寺に鳥居、神も仏も、このおおらかさがある限り、日本は大丈夫、大丈夫。